

平成30年度 燧灘カタクチイワシ卵稚仔調査

(第5回 6月下旬分)

香川県水産試験場 環境資源部門 (藤田)
TEL 087-843-6511/ FAX 087-841-8133

○カタクチイワシ卵の出現状況

卵が前年と同程度、平年より多めに出現した。

前年	平成29年6月16日	(17点の平均)	49.6 個/m ³
前回	平成30年5月31日	(7点の平均)	152.1 個/m ³
今回	平成30年6月15日	(17点の平均)	43.6 個/m ³
※6月下旬の平年値			16.0 個/m ³

○カタクチイワシ仔魚の出現状況

仔魚が前年および平年より大幅に多く出現した。卵黄吸収前の小さめの仔魚(前期仔魚)が多かった。南寄りに多かった。

前年	平成29年6月16日	(17点の平均)	3.6 尾/m ³
前回	平成30年5月31日	(7点の平均)	26.4 尾/m ³
今回	平成30年6月15日	(17点の平均)	19.0 尾/m ³
※6月下旬の平年値			3.3 尾/m ³

○プランクトン調査

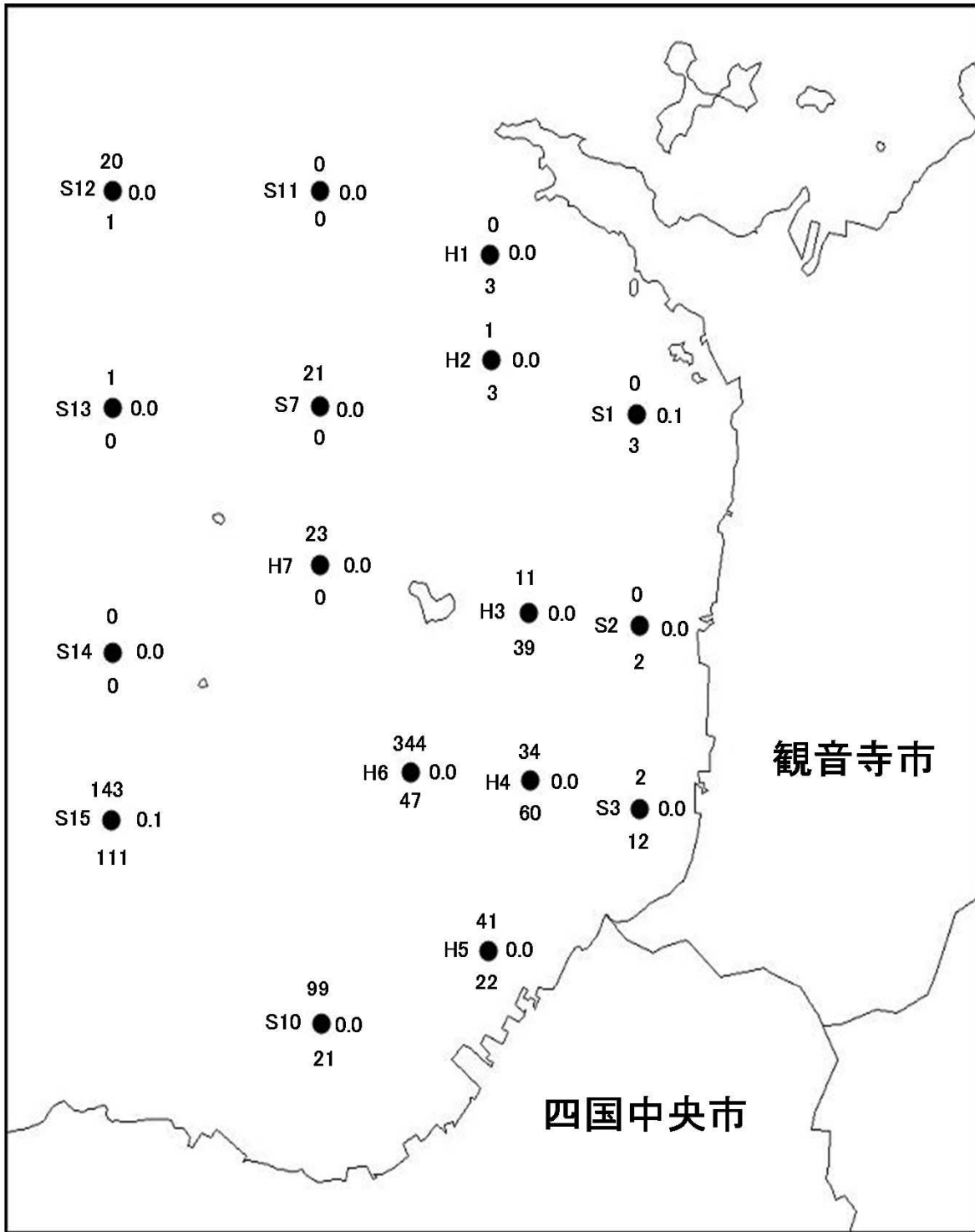
プランクトン量では、夜光虫(ノクチルカ)が多かった。
カタクチイワシの餌となるカイアシ類は前年と同程度で、平年より少なかった。

○クラゲ調査

クラゲ類は全般的に少なかった。

次回の調査は7月3日(火)の浅海定線調査に合わせて実施予定

カタクチイワシ卵稚仔採集状況 (2018/6/15)



観音寺市

四国中央市

●の上側がカタクチイワシ卵数/m³を
下側がカタクチイワシ稚仔数/m³を、
右側がカイアシ類量(ml/m³)を示す。

※カイアシ類量は、プランクトン採集量
(0.335mm以上)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出した概算値。

※卵稚仔数は小数点以下第一位を四捨五入した値。

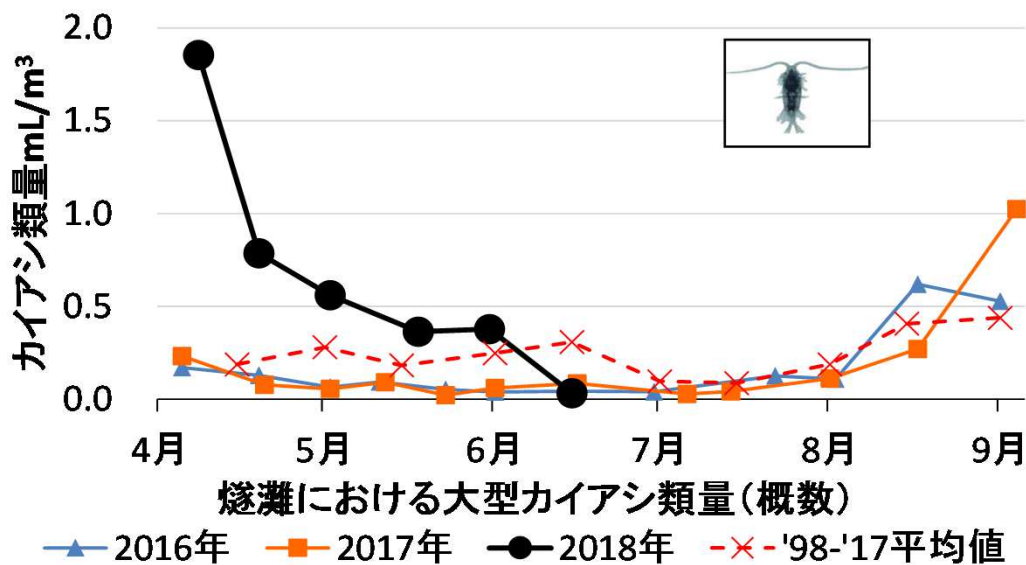
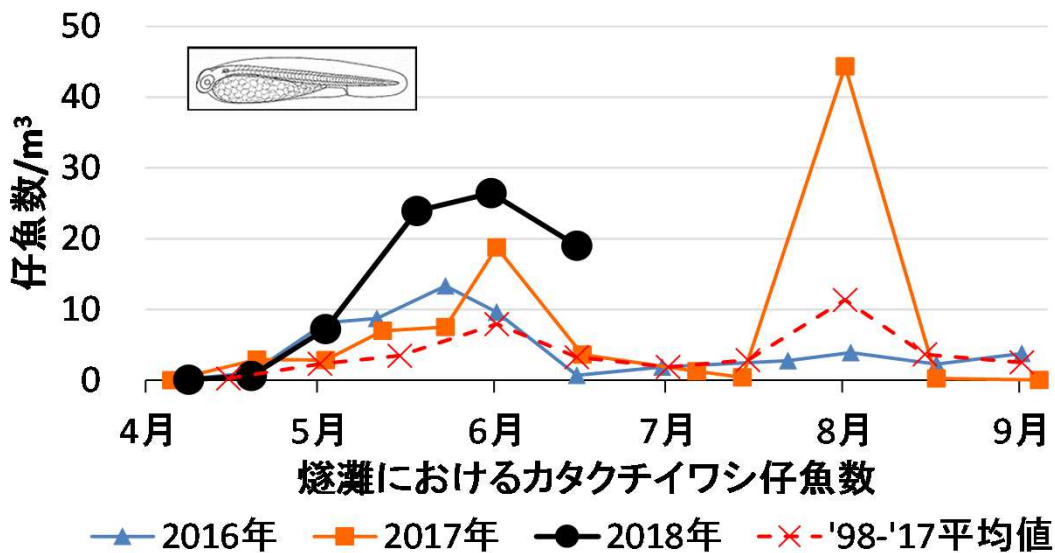
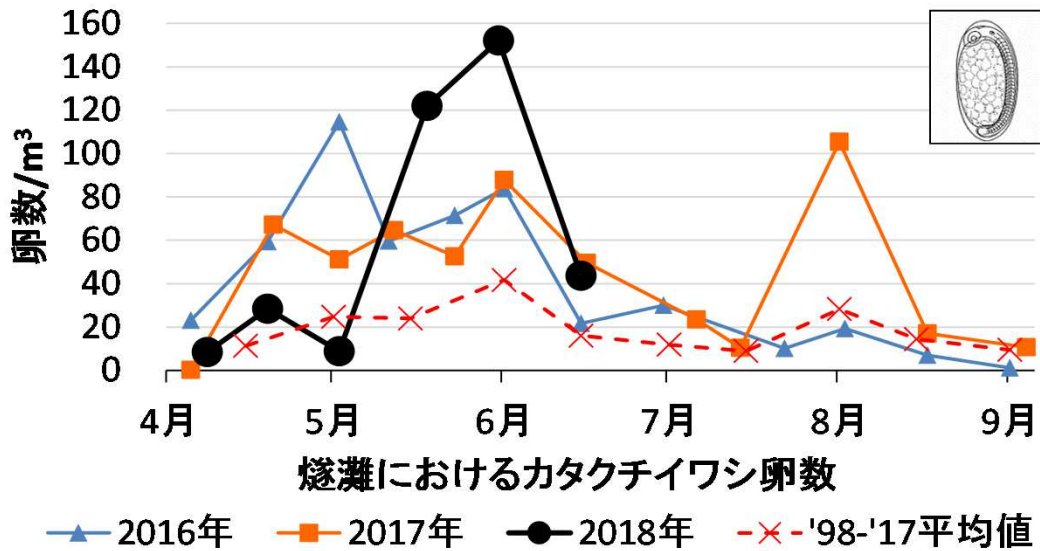
21 ← 卵数
凡例 ● 0.6 ← カイアシ類量
5 ← 稚仔数

平成30 年度燧灘カタクチイワシ卵稚仔調査(5回目)

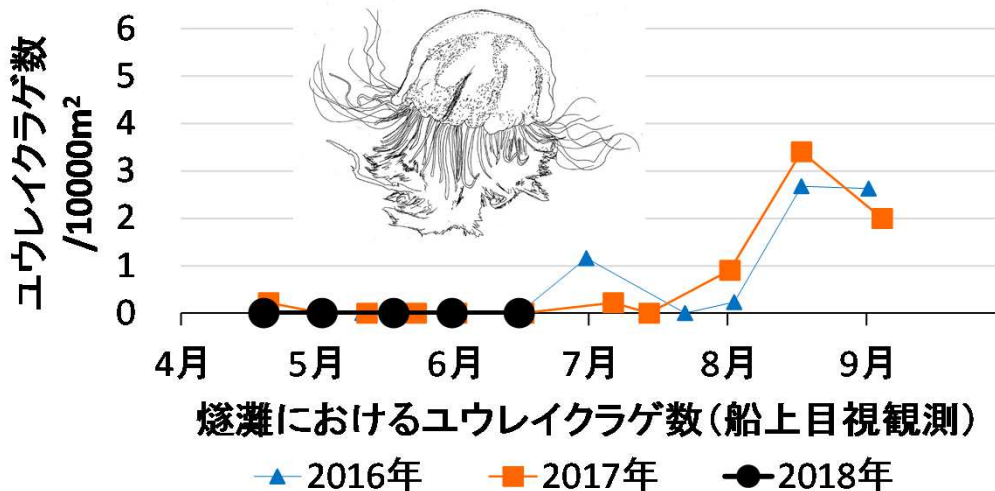
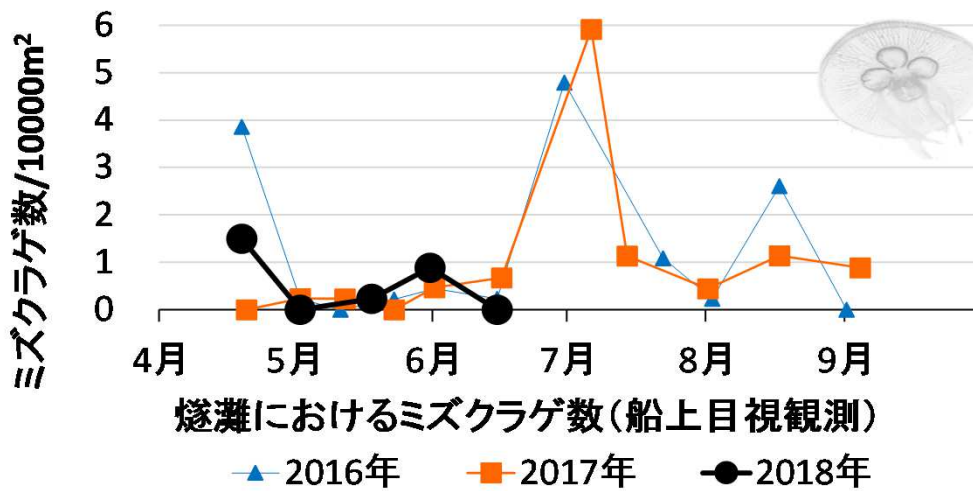
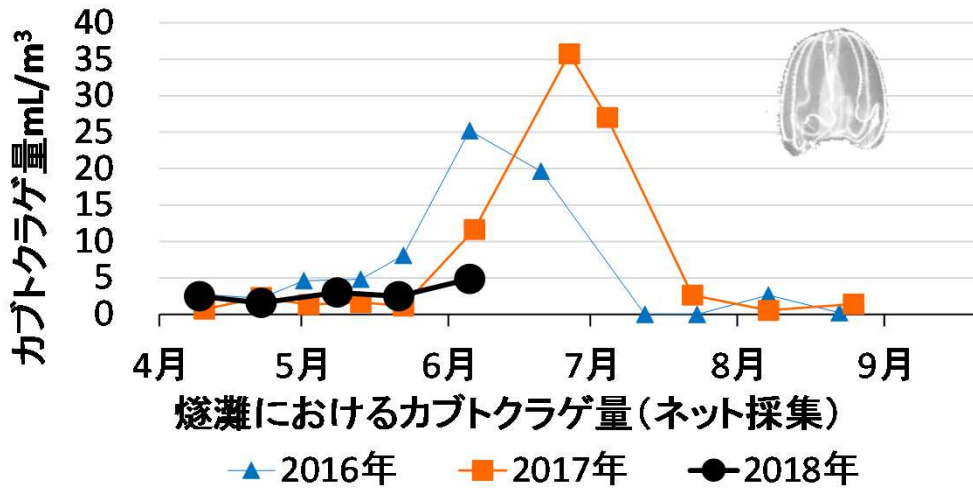
調査日: 2018/6/15

S T	曳網水深 (m)	表層水温 (°C)	カタクチ卵	マイワシ卵	その他卵	カタクチ稚仔	マイワシ稚仔	その他稚仔
H1	20	21.2	0	0	0	3	0	1
H2	20	21.5	1	0	1	3	0	0
S1	20	21.8	0	0	0	3	0	0
S2	20	21.6	0	0	1	2	0	1
H3	20	21.7	11	0	3	39	0	2
S3	20	22.2	2	0	0	12	0	0
H4	20	22.0	34	0	1	60	0	0
H5	20	21.7	41	0	5	22	0	1
S10	20	22.1	99	0	8	21	0	1
H6	20	21.6	344	0	1	47	0	1
H7	20	20.9	23	0	10	0	0	2
S7	20	20.8	21	0	1	0	0	0
S11	20	20.8	0	0	1	0	0	0
S12	20	20.5	20	0	1	1	0	1
S13	20	20.9	1	0	4	0	0	0
S14	20	21.0	0	0	2	0	0	1
S15	20	21.6	143	0	10	111	0	4
7点平均		21.5	65	0	3	25	0	1
平均		21.4	44	0	3	19	0	1

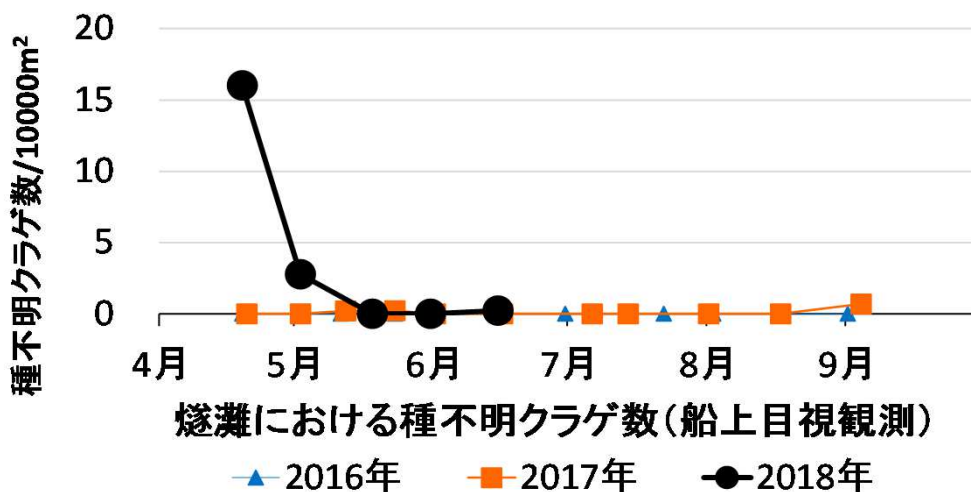
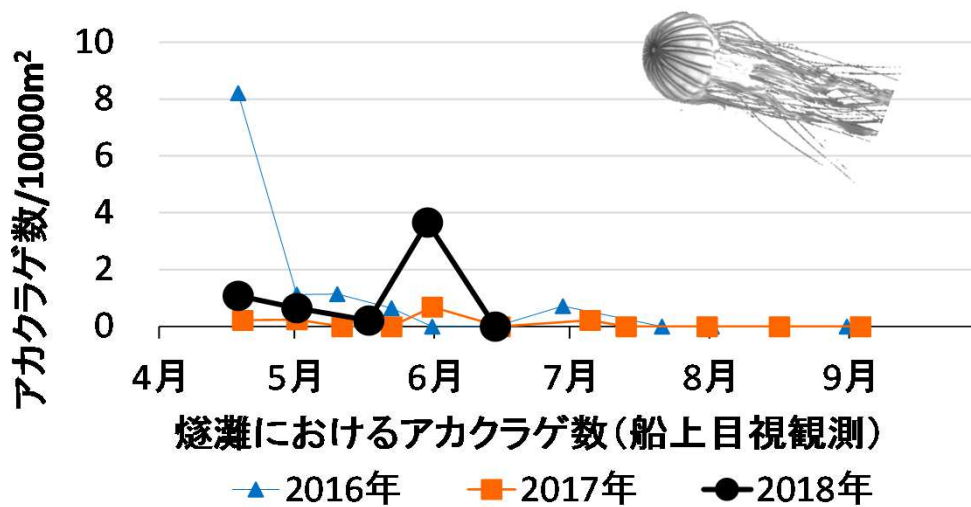
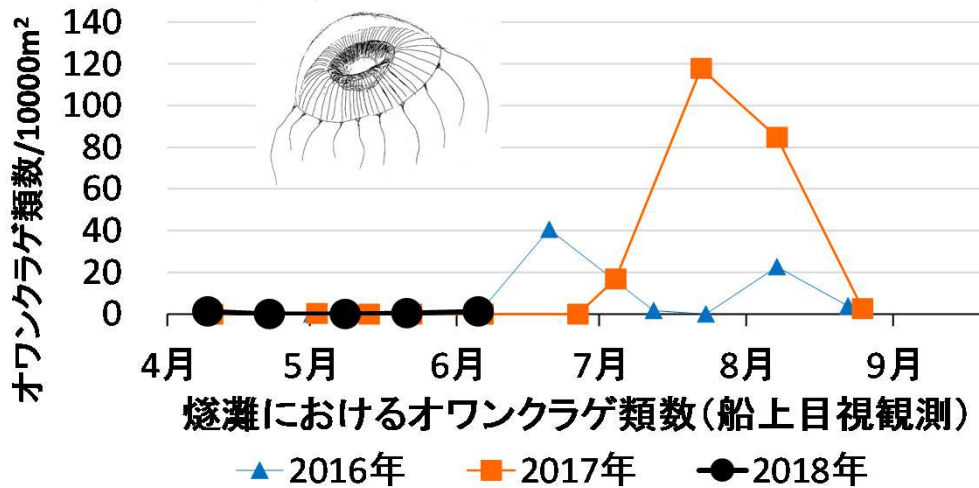
※7点平均は浅海定線調査を行っているH1～H7の平均 ※採集数はm³当たりの数
 ※卵稚仔数は小数点以下第一位を四捨五入した値



※カイアシ類量は、プランクトン採集量(沈殿量)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出しています。餌料環境の目安としてご参照ください。



※カブトクラゲは丸特Bネットによる全定点の平均採集数。その他はH1～H7の7点における平均船上観測数(船速平均7ノットで3分間航走する間に、船側両舷5mで視認できるクラゲの数)。クラゲ量の目安としてご参照ください。
 ※この報告の情報により不利益等が発生した場合において水産試験場は何ら責任は負いません。



※H1～H7の7点における平均船上観測数(船速平均7ノットで3分間航走する間に、船側両舷5mで視認できるクラゲの数)。クラゲ量の目安としてご参照ください。

※この報告の情報により不利益等が発生した場合において水産試験場は何ら責任は負いません。